

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

特別の教科 道徳 中学校

1つの教材を複数時間で扱い、じっくり考え議論する道徳へ

10秒でいうと　複数時間での扱いと「深める教材」（13程度が目安）。教師が交代で学級を回る授業も可

中学校でも、道徳科の目標は今の書き方を保ちつつ、1つの教材を複数時間で扱う授業を進める方向です。深める教材の目安は13とされ、読み物教材は精選されます。また、先生が交代で学級を回って授業する「チームで行う道徳授業」を、学校の実態に応じて導入できると明確にする方向です。情報モラルやAIをめぐる問いを扱うことも示されています。

1 複数時間と「深める教材」（目安13）

1つの教材を翌週にまたいで複数時間で扱う授業を進める方向です。教科書の読み物教材を精選し、2コマ目などで使う「深める教材」を充実させます。中学校の深める教材の目安は13で、読み物教材と合わせて35コマ分とされています。 P309 P312

授業では たとえば1時間目で教材から問いを出し合います。翌週は別の資料も使い、その問いについて立場を変えながら議論することが考えられます。

2 先生が交代で回る「チームで行う道徳授業」

今の中学校の学習指導要領は、道徳科を学級担任が行うことを原則としています。次期は、先生が交代で学級を回る方法を導入できると明確にする方向です。同じ教材で授業を重ね、指導力を高められることなどが理由です。生徒の成長を見取りにくいといった留意点も示されています。 P315

授業では たとえば学年の先生で教材を分担して各クラスを回り、生徒の発言や様子をメモで担任に伝える仕組みを作ることが考えられます。

3 葛藤を2つの型で考える

問題解決的な学習で扱う「問題」の例を、2つに整理して解説で示す方向です。「価値の実現をめぐる葛藤」は、よいと分かっていても行動が難しい場面です。「価値の対立をめぐる葛藤」は、一方を取ると他方が損なわれる場面です。 P311

授業では たとえば「友達との関係を大切にするか、公平さを守るか」のように、2つの価値がぶつかる場面で話し合うことが考えられます。

4 情報モラルとAIをめぐる問い

誤った情報の拡散や闇バイトへの関与など、ネットのリスクが増えています。情報モラルは、してはいけないと分かっていても、なぜしてしまうのかを考え議論する扱いに見直す方向です。「何のために、どこまでAIを使うか」といった問いを扱えることも示されています。 P314

授業では たとえば「宿題や作品づくりを、AIにどこまで手伝わせてよいか」を考え、その理由を出し合う授業が考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 1つの教材を「複数時間」でじっくり扱う授業を進める P301 P309
- 教科書の読み物教材を減らし「深める教材」を入れる P312 P313
- 「問題解決的な学習」「体験的な学習」の趣旨と「葛藤」の例を分かりやすく示す P310 P311
- 道徳科の「深い学び」を2つの視点で示す P301 P308
- 教師が交代で学級を回る「チームで行う道徳授業」を導入できると明確化 P315
- 各教科・特別活動・社会科と道徳科の連携をはっきりさせる P302 P303 P304
- 全体計画・道徳教育推進教師・高校の「中核的な指導の場面」の見直し P304 P305 P100
- 情報モラルの見直しとAIが生む道徳的な問題を扱う P314

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。